いけだレトロ館

77

江戸時代の小銭入れ 早道（はやみち）

資料提供　荒川覚之進
文　今西　龍雄

池野の「今利屋」さんの覚之進さんが、先祖代々のものをお持ちだと聞いて寄らせていただきました。部屋にはお父さんの物、お祖父（じい）さんの物、といった具合にそれぞれが大きな箱に別けて整理されていました。其の中で特に目を引いたのは、ひいおじいさん（お祖父さんのお父さん）の角次郎さんの持ち物だというこの財布です。早道という江戸時代に流行った小銭入れです。

早道は帯にはさめるように作られていて、腰につるして持ち歩き、普通の財布より早くお金を取り出せることからこの名前が付いたと言われています。先端の筒は左右に開き、旅人たちは其の中に裁縫道具や薬を入れて持ち歩いたということです。

江戸時代に書かれ、弥次（やじ）さん、北（きた）さんでおなじみの「東海道中膝栗毛（ひざくりげ）」にも早道は出てきます。江戸を出て藤沢（神奈川県）の手前で二人は物乞いの男に「一文（もん）くださいませ」と付きまとわれます。「銭は無い」と断りますが「いくら倹約家の旦那でも、足だけでは旅はできますまい」と食い下がられ、弥次さんは

（以下原文）

弥次「エ、やかましい。ソレやろう」と**はやみちより壱文（いちもん）ほふりだす。**

男　「コリヤ四文銭（せん）とはありがたい」

弥次「ヤ四文ぜにか。三文つりよこせ」

男　「ハ、、、、、、」

と男は笑って行ってしまいます。目で確かめもせず四文銭を放り出した弥次さんでしたが、腰には早道を下げていたことがわかります。

また大垣市の「奥の細道むすびの地記念館」にも、おそらく芭蕉も身に付けていたであろうと早道が展示してあるそうです。

この早道の持主だった角次郎さんは、江戸時代から明治にかけて大垣で呉服商を営んでみえましたが、明治19年、47歳のとき池野に店を移されました。それは揖斐街道に沿って池野の街が出来つつあった時でした。お客さんを回られることはもとより、仕入先が岐阜や名古屋であったことから、外を出歩かれる機会は多かったことと思われます。そんな時、大きなお金は懐（ふところ）に、小銭は早道に入れて出かけられたことでしょう。

『いけだレトロ館』では、このコーナーで紹介する古い道具を探しています。池田町役場総務部企画財政課までご連絡ください。　☎45・3111

協力　郷土史の会

R100 古紙混合率100%の再生紙を使用しています　VEGETABLE OIL INK　池田町は地球にやさしい環境づくりを進めます。ISO14001認証取得　登録番号：EC02J0057